

令和 3 年 2 月 9 日  
教育委員会事務局学校教育課米子市内の児童生徒の不登校の状況について  
～児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査等より～

## 1. 不登校児童生徒の推移 (中学校は組合立を含む)

(人)

		H29	H30	R元	R2 (12月末現在)
小学校	1年	5	2	1	1
	2年	6	7	7	7
	3年	10	8	14	10
	4年	8	15	17	15
	5年	4	18	18	27
	6年	13	12	26	23
合計		46	62	83	83

		H29	H30	R元	R2 (12月末現在)
中学校	1年	16	20	21	22
	2年	32	45	43	33
	3年	23	30	62	37
合計		71	95	126	92

## 2. 不登校の主たる要因

(人)

		H29			H30			R元			R2 (12月末現在)		
		小	中	合計	小	中	合計	小	中	合計	小	中	合計
分類	「学校における人間関係」に課題を抱えている	4	0	4	17	2	19	5	1	6	9	1	10
	「あそび・非行」の傾向がある	0	5	5	0	0	0	0	0	0	4	1	5
	「無気力」の傾向がある	8	18	26	15	21	36	19	42	61	14	20	34
	「不安」の傾向がある	24	39	63	16	21	37	36	34	70	31	25	56
	「複合」	/			/			/			18	31	49
	「その他」	10	9	19	14	51	65	23	49	72	7	14	21
合計		46	71	117	62	95	157	83	126	209	83	92	175

## 3. 不登校となったきっかけと考えられる状況 (考えられるきっかけ、関係すると思われる項目を複数回答しています。)

		H29			H30			R元		
		小	中	合計	小	中	合計	小	中	合計
学校に係る状況	いじめ	0	0	0	0	1	1	0	2	2
	いじめを除く友人関係	10	32	42	11	38	49	4	23	27
	教員との関係	2	0	2	3	0	3	1	0	1
	学業不振	6	23	29	10	13	23	4	18	22
	進路に係る不安	0	2	2	0	6	6	0	7	7
	クラブ・部活動への不適応	0	1	1	0	0	0	0	3	3
	学校のきまり等をめぐる問題	6	4	10	0	0	0	1	0	1
	入学、転編入学、進級時の不適応	0	0	0	1	5	6	1	0	1
関係家庭に	家庭の生活環境の急激な変化	/			/			4	0	4
	親子の関わり方	15	17	32	17	23	40	9	14	23
	家庭内の不和	/			/			2	3	5
関係本人に	生活リズムの乱れ・あそび・非行	/			/			14	27	41
	無気力・不安	/			/			58	70	128
その他		16	17	33	24	21	45	6	12	18
合計		55	96	151	66	107	173	104	179	283

※令和2年度の数値は、年度末に調査を行うため、載せていません。

## 【概要】

不登校児童生徒数は、この3年間で小学校、中学校とも20～30人ずつ増加しており、令和元年度は小学校、中学校とも平成27年度の2倍となっており、特に小6、中3が多い状況です。小1の不登校児童数は減少しており、幼保小連携の取組の効果が一定程度現れていると考えます。また、中1から中2、中2から中3への進級時と比較すると、小6から中1の進学時における不登校生徒数の増加率は緩やかであり、米子市版小中一貫教育の取組の成果と考えられます。不登校になったきっかけとして、令和元年度は小学校、中学校とも「本人に係る状況」が多い結果となりました。この傾向は令和2年度においても確認できます。なお、新型コロナウイルス感染症による臨時休校措置の影響による生活習慣の乱れ等により不登校に至ったケースは、若干数報告されています。(1～2名)

今後も、SSW活用事業により、関係機関連携する中で保護者支援を含む様々な支援を充実させること、アセスメントシート等を活用した保幼小中の切れ目ない支援体制の構築及び連携の強化を図ることで、不登校の未然防止や不登校状態の改善、解消に向けた取組を推進する必要があると考えます。